

## 令和2年度 高等学校OPENプロジェクト実施計画書（3年次）

### 1 研究の概要

本校が所在する八雲町は渡島半島の北部にあり、東は内浦湾、西は日本海に面し、人口1万7千人ほどの農業・漁業の町である。少子高齢化が進み、人口減少をはじめ多様化する地域課題を解決するため経済、社会、環境を関連付けた持続可能なまちづくりを目指している。

近年では、町が上智大学の学生を招いて数日間を町内で過ごしてもらい、外からの視点で見た町に関する意見の聞き取りを行ったり、町長・町議会が、施策に関する本校生徒の提言を聞く機会を設けたりするなど、若者が町づくりに参加する取組が行われている。

本研究では、生徒が本町の現状と課題を認識し、町内関係機関等と連携して解決策の検討・提言を行うことによって、人口減少の抑止、町の魅力化・活性化を図り、町内外に向けた情報発信等に貢献することで若者の定着率を高めることを研究主題とする。

過去2年間の取組において明確となった八雲町の課題及び将来への期待等を整理し、八雲町、八雲町議会及び八雲町教育委員会等との連携を一層図った上で、「総合的な探究の時間」等を活用して課題解決に向けた取組を提言する。

特に、研究2年次に八雲町、町内の事業者及び地域おこし協力隊と連携して取り組んだ「物産振興事業」において開発した商品に改善を図ることにより、製品化を目指す。併せて、八雲町がふるさと納税に係り運営を予定している「まちづくり会社」に生徒が参画することにより、生徒は八雲町の価値を高めるためのストーリー作り、ストーリーを裏付けるための魅力的な返礼品の開発及び八雲町の効果的なPR等について実践的かつ主体的に学ぶことを目指す。

研究2年次で取り組んだ町内の事業者による職業講話、以前から取り組んでいるインターンシップ及びボランティア活動についても、内容等を含めて一層充実させる。また、八雲町の各中学校や子供会などの団体を対象とした本校生徒によるピアサポート活動を通じた交流にも継続的に取り組み、高校生と町内の小中学生がよい人間関係を築くことにより、若者が地域に根付くコミュニティ作りを目指す。

これらの取組を通して、生徒は産業振興、担い手対策、再生可能エネルギーの活用など「SDGsを踏まえた八雲町の発展と社会貢献」について理解を深めるだけでなく、異世代間交流におけるコミュニケーション力やプレゼンテーション能力、課題解決能力の向上が期待される。また、地元に対する理解と関心を深め、地域への愛着を育てることにより、卒業後に地域の企業に就職する生徒の増加、地域企業就職後の離職率の低減など、本校卒業生を中心とした若者の定着（将来的なUターンを含む）を促進する。

(別紙様式)

## 2 研究主題

「SDGs を踏まえた魅力的な町づくり」～地域社会の活性化による若者の定着率を高める～

## 3 研究の内容等

### (1) 解決に取り組む地域の課題

(現状)

- ・八雲町は少子高齢、人口減少をはじめとした多様化する地域課題の解決に向け、経済、社会及び環境を関連づけた持続可能なまちづくりを目指している。

(課題、高校に対するニーズ等)

- ・産業振興、担い手対策及び再生可能エネルギーの活用等、「SDGs を踏まえた八雲町の発展と社会貢献」において、大学生や高校生など若者のまちづくりに関する提言が求められている。特に本校は在校生の 94%が八雲町民であることから、期待されているところは大きい。

### (2) 研究目的と目標

(研究目的)

- ・人口減少の未来に地域の中核を担う人材（「八雲の魂」を受け継ぐ生徒）を育成する。また、地域との絆を実感することにより、地域における自分の役割をイメージできる生徒を育成する。

(研究目標)

- ・人口減少の未来に地域の中核を担う人材（「八雲の魂」を受け継ぐ生徒）を育成するために、地域が活力をもちながら、地域の魅力を発信することのできる取組の具体を生徒が八雲町などに対して立案する。
- ・生徒が八雲町「まちづくり会社」の実践的な業務への関与を通して、地域資源を活用した返礼品の企画力、商品価値を持たせるための商品化力、その魅力を納税者に伝える販売力及び業務の流れをチェックする管理力を総合したビジネスマインド等を身に付けさせる。また、地域資源の活用や地域産業振興の課題について理解を深めるとともに、地域の利点を地域産物の販売につなげることにより、地域社会の活性化及び魅力発信を実践していく。
- ・学校ホームページに専用ページを作成することにより、発信を強化する。
- ・生徒及びプロジェクトに関係した諸団体へアンケートを実施することにより、生徒の地域に対する興味や関心の変容、地元就職の状況及び研究の成果等を定量的、定性的に分析することを、本取組の評価とする。

### (3) 研究内容

(内容)

- ・八雲町の課題及び若者の将来に対する期待を整理し、八雲町、町議会及び町教委等と連携しながら、「総合的な探究の時間」等を活用することにより町の課題解決に向けて提言する。また、町の魅力を発信することを通して、若い世代の定着につなげる施策を提言する。
- ・八雲町が運営を予定している「まちづくり会社」に生徒が参加し、業務内容とする「ふるさと納税取扱業務」に参画することにより、町の価値に関するストーリー作り、ストーリーを裏付ける魅力的な返礼品の開発及び効果的

(別紙様式)

な PR 等について実践的な業務に従事する中で体験する。 ・地域の中学校及び子供会とのピアサポート活動による交流を通して、地域の小中学生とよい人間関係を築くことにより、若者が地域に根付くコミュニティづくりを行う。 (方法) ・八雲町、町議会、町教委等との連携 ・経済産業省「地域経済分析システム」(RESAS)の活用 (教育課程上の位置付け) ・「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」等の活用 総合ビジネス科においては「総合実践」の活用
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(4) 実践研究の規模

全校で実施する。(1・2年次…総合ビジネス科を中心に研究を実践)
----------------------------------

(5) 研究成果の普及方法

・校内における課題研究発表会 ・学校ホームページでの公表
---------------------------------

(6) 3年間の研究計画

研究年度	研究内容
平成30年度 (1年次)	・地域の課題の検討、解決策の検討、連携大学生徒の議論や町行政担当者との懇談 ・地域の中学校や子供会と連携したピアサポート活動交流 ・インターンシップ連携先の拡大の実施
令和元年度 (2年次)	・地域の課題の検討、解決策の提言、連携大学生徒の議論や町行政担当者との懇談 ・「まちづくり会社」への参加 ・地域の中学校や子供会と連携したピアサポート活動交流 ・インターンシップ連携先の拡大の実施
令和2年度 (3年次)	・町と連携した課題解決策の実行、連携大学生との議論や「やくも少年少女ゆめ議会」での提言 ・「まちづくり会社」との連携 ・地域の中学校や子供会と連携したピアサポート活動交流 ・インターンシップ連携先と生徒就職先の連動化

(7) 令和2年度の実践計画

実施月	実践内容
4月	・本校生徒のピアサポートトレーニング開始(本校) ・第1回校内連携委員会(実施計画の確認) ・町の関係団体との打合せ(実施計画の確認)
5月	・第1回地域みらい連携会議 ・八雲町の魅力発信ワークショップ①
6月	・「まちづくり会社」との連携 ・八雲町の魅力発信ワークショップ②
7月	・地域行事「八雲山車行列」への本校生徒の参加協力 ・町内中学校ピアサポート交流①(八雲中・野田生中)

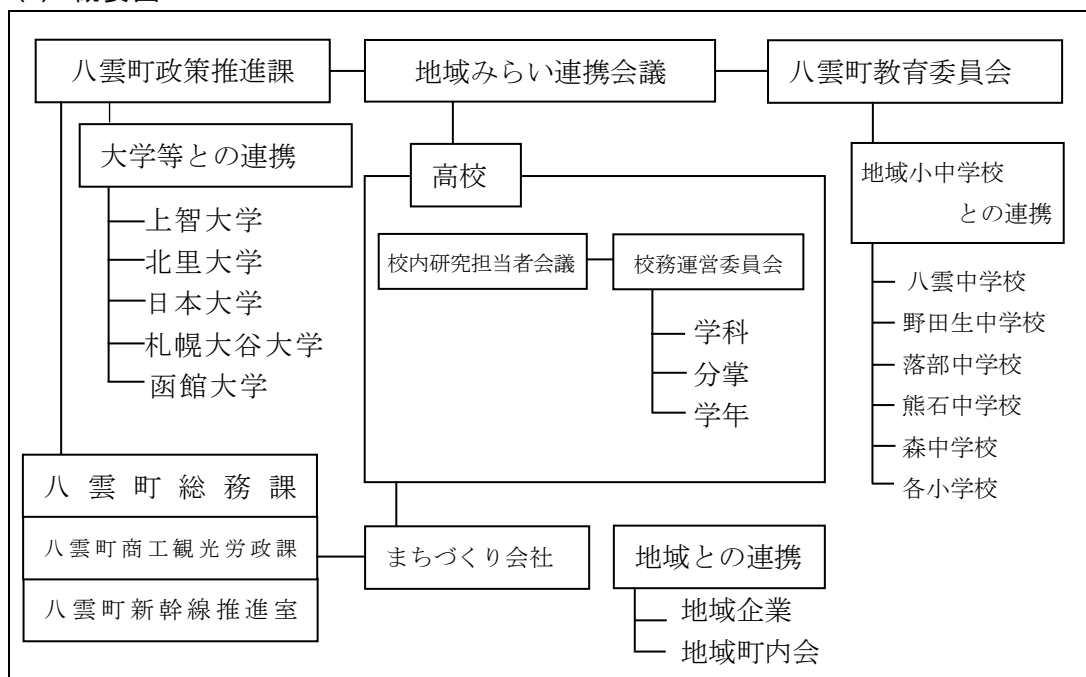
8月	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域向けプロモーションビデオ作成（10月まで）</li><li>・八雲町の魅力発信ワークショップ③</li></ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"><li>・上智大学と本校生徒による、「SDGsを踏まえた八雲町の発展と社会貢献」におけるまちづくりについての論議</li><li>・町内中学校ピアサポート交流②（熊石中）</li><li>・インターンシップ（2年「総合的な探究の時間」12時間）</li><li>・商業教育フェア参加（総合ビジネス科2、3年 札幌市）</li><li>・八雲町の魅力発信ワークショップ④</li><li>・八雲学①【八雲を知る】八雲高校100周年に向けた「八雲高校賛歌」の歌詞作り（1年「音楽」）</li><li>・第2回校内連携委員会（本校）</li><li>・第2回地域みらい連携会議（本校）</li></ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"><li>・高等学校OPENプロジェクト成果発表会（札幌市内）</li><li>・はぴあ産直市での販売実習①（総合ビジネス科1年）</li><li>・2年八雲学【八雲町の基幹産業を知る】（八雲町・八雲町教育委員会連携「総合的な探究の時間」1時間）</li><li>・見学旅行における「名古屋徳川美術館」での研修</li><li>・職業人育成ワークショップ（総合ビジネス科2、3年「総合実践」及び「マーケティング」2時間）</li></ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"><li>・八雲町子供会との連携による小学生とのピアサポート交流</li><li>・全道ミーティング（札幌市）</li><li>・はぴあ産直市での販売実習②（総合ビジネス科1年）</li></ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"><li>・1年八雲学①【八雲の産業の歴史】（八雲町・八雲町教育委員会連携「総合的な探究の時間」1時間）</li><li>・3年八雲学【伝統文化を体験する】（八雲町・八雲町教育委員会連携「総合的な学習の時間」2時間）</li></ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"><li>・1年八雲学②【八雲の産業の今とこれから】（八雲町・八雲町教育委員会連携「総合的な探究の時間」1時間）</li><li>・1年八雲学③【職業人講話】（八雲町関係者「総合的な探究の時間」1時間）</li></ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"><li>・課題研究発表会実施（函館大学高大連携 3年総合ビジネス科「課題研究」）</li><li>・町内中学校ピアサポート交流（落部中）</li><li>・第3回校内連携委員会（本校）</li><li>・第3回地域連携委員会（本校）</li><li>・町の関係団体との打合せ（次年度に向けて）</li><li>・地域連携による地元に関する講話等</li><li>・町の関係団体の打合せ</li></ul>

【地域向けプロモーションビデオの作成について】

本プロジェクトの4つの柱である「八雲を知る」「若い世代の絆づくり」「八雲町の魅力づくり」「八雲町の課題解決提言」での取組をビデオ撮影し、高校生それぞれが地域の役割を担うことによって、郷土愛が醸成されていることをプロモーションできるよう編集していく。

#### 4 研究組織

##### (1) 概要図



##### (2) 校内研究担当者

職名	氏名	担当教科・分掌等
教頭	藤島 成行	全体統括
教諭	青沼 宏	プロジェクトリーダー
教諭	池田 賢介	生徒指導部（生徒会担当）
教諭	藤島 大輔	総合ビジネス科長
教諭	山崎 祐介	進路指導部長
養護教諭	長野 喜美子	生徒指導部（教育相談担当）

##### (3) 連携・協働先

連携・協働先	具体的な連携・協働内容
八雲町政策推進課 商工観光労政課 総務課 新幹線推進室 教育委員会	連携大学生とのまちづくり論議 八雲まちづくり会社との連携 「やくも少年少女ゆめ議会」での提言 新幹線「新八雲駅」構想の町長との懇談 町内中学校でのピアサポート交流

##### (4) 地域みらい連携会議構成員

所属・職名	氏名	備考（専門分野）
八雲町政策推進課課長	竹内 友身	まちづくりへの提言
教育委員会学校教育課長	石坂 浩太郎	中高連携
渡島総合振興局地域創生部地域政策課地域政策係長	西山 淳史	
渡島教育局教育支援課高等学校教育指導班主査	藤本 純一	
八雲高校 校長	菅原 雅之	
教頭	藤島 成行	
教諭	青沼 宏	
教諭	池田 賢介	
教諭	藤島 大輔	

(別紙様式)

教諭 養護教諭 生徒	山 崎 祐 介 長 野 喜美子 生徒会執行部	
------------------	------------------------------	--

5 その他特記すべき事項

なし
----

## 6 研究のイメージ図

### 八雲高校は

生徒が主体的に地域の課題解決に取り組むことで、地域での自分の役割をイメージし、地域との絆を実感するとともに、地域社会の活性化を実現していく、OPENプロジェクトを展開しています。

#### 大学との連携

- ・上智大学
- ・北里大学
- ・日本大学
- ・札幌大谷大学
- ・函館大学

#### 八雲高校

- ・確かな学力の育成
- ・主体的・対話的で深い学び
- ・普通科  
「総合的な学習（探究）の時間」の充実
- ・総合ビジネス科  
「総合実践」の充実

#### 地域の学校との連携

- ・地域小中学校とのピアサポート交流
- ・部活動を通じた地域の学校との交流
- ・地域児童生徒の本校探検受け入れ

#### 八雲町との連携

- ・「まちづくり会社」を通じた町の価値のストーリー発見、商品化、発信
- ・八雲町の魅力の発信
- ・新幹線新駅のイメージ検討
- ・若者の住みやすい町への提言

#### キャリア学習

- ・インターンシップの充実
- ・ピアサポート活動
- ・ボランティア活動  
「学校として」取り組む  
「部活動として」取り組む  
「個人として」取り組む

#### 地域の教育資源の活用

- ・体験的活動
- ・山車行列などの町行事への参加

このプロジェクトの目的は  
人口減少の未来に地域の中核を担う人材として八雲の魂を受け継ぐ生徒を育成し、地域を活気づけることです。